

生物多様性 [自然共生社会を構築するために]

ユニーは、持続可能な社会を実現するために、低炭素社会・循環型社会とともに自然共生社会を構築し、「さまざまな生き物がそれぞれつながり合って生きていける」生物多様性保全に取り組んでいます。2010年10月に愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開かれます。愛知県に本社を持つユニーは、「テーブルの上の生物多様性」をテーマに、日常の生活を通じてお客様と一緒に取り組んでいます。

▶ いのちと暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間も含めた様々な生物が生まれ、つながり合って生きてきました。この生物多様性がもたらす恵み（生態系サービス）によって、私達の命や暮らしは支えられています。しかし、生物多様性は失われつつあり、環境省により2007年までにレッドリストに記載された絶滅危惧種は3,155種に及びます。

種の多様性
いろいろな生き物がいること

生態系の多様性
さまざまな環境があること

遺伝子の多様性
それぞれの種の中でも個体差があること

日本の取り組み

生物多様性を保全するために、1993年に生物多様性条約が発効し、日本は加盟国として1995年に生物多様性国家戦略を策定しました。2007年には、第三次戦略を閣議決定し、2008年に生物多様性基本法を施行しました。2009年は、環境省が生物多様性民間参画ガイドラインを公表しました。

●2007年「第三次戦略を閣議決定」

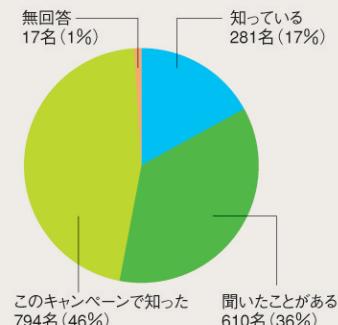
- 1.企業など社会への浸透
- 2.人と自然の関係の再構築
- 3.森・里・川・海のつながりを確保する
- 4.地球規模の視野で行動する

●2008年「生物多様性基本法を施行」

- 1.企業活動が生物多様性に及ぼす影響を把握すること
- 2.取引先やサプライチェーンなどの他の事業者と連携を図りながら生物多様性に配慮して事業活動を行うこと
- 3.生物多様性に事業活動が及ぼす影響を低減する
- 4.持続可能な利用に努めること

「生物多様性を知っていますか？」

2月よりユニーの生物多様性にちなんだイベント、「テーブルの上の生物多様性」でお客様にアンケートを実施しました。COP10の開催地である愛知県名古屋市と、お隣の岐阜県大垣市のお客様1,702名にアンケートをしたところ、生物多様性について「知っている」と回答されたのは281名17%でした。「聞いたことがある」という回答を加えてようやく半数を超えるという認知度の低さでした。ところが、「生き物たちにメッセージを」との質問に対しては、ほとんどの方が「地球上と一緒に生きている生き物たち」に語りかけてくれています。



お客様からのご意見・ご感想

- 未来の子供達のために、たくさんの生き物がずっと残っていてほしいです。
- ご飯を食べるときに、「いただきます」と「ごちそうさま」を感謝の気持ちを持って言おうと思います。
- どんな命も無駄にしない。全ての命が生きていることを忘れないでいたいです。
- 私達は自然の恵みをいただきて生きているので、環境に配慮して作られた食品を選びたいと思います。

▶ 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）

生物多様性条約締約国会議は、条約を結んだ国が約2年ごとに集まり、生物多様性を守り、それが絶えることなく存続するための仕組みや遺伝資源の利用から出る利益を公平に分ける仕組みなどが話し合われます。第10回COP10は、2010年10月11日から29日の3週間、愛知県名古屋市で開催されます。ユニーはCOP10協賛事業に参加し、お客様・取引先・従業員や関係する人々と一緒に、「いろんな生き物と一緒に生きる」こと、生物多様性保全の啓発活動を実施していきます。

▶ COP10開催1年前イベントに佐々木会長が出演

2009年10月12日、名古屋国際会議場においてCOP10開催1年前記念行事生物多様性フォーラムが開催され、名古屋の事業所代表としてユニーの佐々木取締役会長が、エコ・ファースト制度における食品リサイクルに関する取り組みについて発表しました。フォーラムには、アハメド・ジョグラフ生物多様性条約事務局長も出席され、大変盛況でした。



中央アハメド・ジョグラフ生物多様性条約事務局長
左端佐々木会長